

神戸市立ありの台学校 学校評価報告書

校園長名 小林 健治

記入者名 西海 淳博

神戸の教育が目指す人間像		教育ビジョン		神戸が目指す これからの学校の姿		
心豊かに たくましく生きる人間		自他を大切に 自ら考え 未来をつくる		人がつながり とともに創る みんなの学校		
り学 の校 目づ 標く	・全職員で全児童を見守り育成する学校 ・地域とつながる学校					
内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育 て た い 子 ど も の 姿	探究・絆・元気					
	興味をもって進んで学ぶ子	育成する資質・能力（つけない力）を明確にした授業づくり（単元構想・導入の工夫・対話・評価等）を進めている。	3	全員授業を行っているが、全体授業以外の研究が若干軽視されているように思える。	学校側は創意工夫をして、より良い授業づくりを目指しているが、個別支援が必要。	職員が、全授業にしっかり関わっていき、より良い授業づくり、個別最適な学びにつなげていきたい。
		主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めている。	3	研修等を通して、日々の授業研究を行っている。ICTを活用することで、子供たちのプレゼンテーションスキルは高まってきている。	子供たちは、ICTを活用することがうまく。授業を参観したが、プレゼンテーションスキルの上達が早いと感じた。	ICTを活発に授業に活用している。今後も、より有効的な利用の仕方を研修していく。
		教科担任等、指導体制の充実や指導方法の改善等の支援を推進している。	3	教科担任制によって、教科を絞った研修ができるために、より高い指導ができるようになっている。	教科担任制で分かりやすい授業ができている	子供も教師も教科担任制に慣れてきて、高い指導効果を感じている。今後も継続して取り組んでいく。
	自分や仲間を大切にできる子	命を大切にする教育や道徳教育、人権の充実を図っている	4	副読本の有効利用の仕方について考えていきたい。	自分や仲間を大切にできている。 挨拶もよくできている。	道徳の授業以外でも、副読本を活用していく。
	粘り強くチャレンジする子	一人一人の伸びを認め、個に応じた指導の充実を進めている	4	デジタルドリルを活用することで、個に応じた指導の充実に生かされている。	デジタルドリルは、視覚的にはとても有効だと思うが、定着の部分で不安がある。やはり、書いて学ぶことも必要ではないか	今後も個に応じた学びの支援に活用していく。
必 須 テ ー マ	①いじめ防止対策に関する取組み	いじめや問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に向けて組織的に取り組んでいる。	4	教科担任を行うことで、子供と教師がクラスや学年を越えて関わることができていることにより、今まで以上に組織的な取組となっている。	異学年交流の中で、思いの相違からうまくいかないことがあったようだ。相手を思いやる気持ちが必要だと思う。	日常生活において、日ごろから起きる課題（友人トラブル、異学年トラブル、国際理解など）を子供たちに考えさせ、他者理解を
	②不登校支援の取組み	不登校や配慮の必要な児童、保護者に寄り添った対応や支援に努めている	4	今年度はサポートルームについて、手探り状態でのスタートだった。しかし、ある一定の成果を残したと思う。	教室にいたことがしんどい子供の負担を軽くする役割となっている。	今年の成果と反省をもとに、より良いサポートルームを目指したい。
	③教職員の業務改善	校務分掌など、学校組織が適切に構成され機能している	3	会議等は、内容を精査し、時間を決めて行うようにする。		様々な場面（学校行事や登下校の見守り等）で、地域、保護者の協力を得て、取り組んでいきたい。
	④保護者・地域への情報提供・発信（すぐる活用、ホームページ等）	保護者連絡のペーパーレス化を含めた、効果的・効率的な情報発信に努めている。	3	HP担当を明確にすることで、1週間に1回程度、更新をすることができた。今後も継続していきたい。		今後もすぐる、ホームページを活用していく。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある